

平成26年度 病害虫発生予察情報

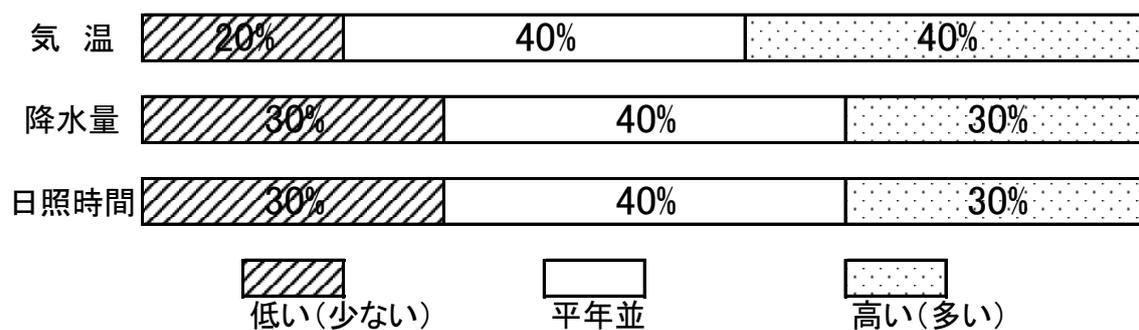
発生予報第5号（7月下旬～8月上旬）

平成26年7月24日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	やや少ない～平年並		
		穂いもち	やや少ない～平年並		
		紋枯病	やや少ない～平年並		
		白葉枯病	やや少ない～平年並		
		縞葉枯病	平年並		
		ヒメトビウンカ	平年並		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		果樹	ナシ	斑点米カメムシ類	やや多い～多い
				黒斑病	平年並
				黒星病	平年並
シンクイムシ類	平年並				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	やや少ない				
うどんこ病	平年並				
カキ	カキ	チャノキアザミウマ	やや少ない		
		果樹全般 カメムシ類	やや多い		

中国地方1か月予報(7月26日～8月25日・広島地方气象台7月24日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月上旬の巡回調査では、発生圃場率は0%（平年10.4%、前年0%）と少なかったが、その後、発生ほ場が散見される。
- ② 感染好適日は、7月上旬から県内で広く出現している。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

- (2) 穂いもち
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない～平年並
 予報の根拠
 ①伝染源となる葉いもちの発生量はやや少ない～平年並みと予想される。
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (3) 紋枯病
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない～平年並
 予報の根拠
 ①7月上旬の巡回調査では、発病株率が0.3%（平年1.0%、前年0.3%）とやや少ない。
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
- (4) 白葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内常習発生地帯
 発生量 やや少ない～平年並
 予報の根拠
 ①7月上旬の巡回調査で発生は確認されていない。
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (5) 縞葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①県内の一部で発生が認められる。
 ②媒介虫であるヒメトビウンカの発生量は平年並みと予想される。
- (6) ヒメトビウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①7月中旬の巡回調査では、捕獲数は0.8頭（平年1.2頭／50株）、発生圃場率は19.6%（平年21.5%）で発生量は平年並みである。
 ②7月17日までに空中ネットトラップ（出雲市）では捕獲されていない。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (7) ニカメイチュウ（第1世代）
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数はほぼ平年並みである。
 ②7月中旬の巡回調査では、発生圃場率は6.5%（平年9.6%）、被害株率は0.5%（平年0.4%）で発生量は平年並みである。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (8) ツマグロヨコバイ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①7月中旬の巡回調査では、捕獲数は3.6頭（平年20.3頭／50株）、発生圃場率は45.7%（平年74.7%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
 ②予察灯での誘殺数は平年並みである。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (9) セジロウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯への初飛来は、出雲市で7月13日に認められた。誘殺数は平年に比べてやや少ない。
 ②7月中旬の巡回調査では、捕獲数は12.2頭（平年70.6頭／50株）、発生圃場率

は69.6%（平成77.9%）で発生量は平成並みである。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

①予察灯（出雲市）への初飛来は7月15日に認められた。誘殺数は平成並みである。

②7月14日のほ場すくい取り調査でトビイロウンカ成虫を捕獲した。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

①予察灯、フェロモントラップおよび巡回調査で発生が認められない。

②向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

①6月下旬の圃場周辺雑草地のすくい取り調査では、カメムシ類合計で13.6頭/20回振り（平成6.21頭）、発生地点率68.8%（平成68.5%）で平成に比べて多い。特にアサジカスミカメ、クモヘリカメムシの発生が多い。

②7月14～18日に収穫している極早生ほ場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で9.0頭/20回振り（平成6.4頭）、発生地点率80.8%（平成74.4%）で発生量は平成に比べてやや多い。

③向こう一か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平成並

予報の根拠

①6月26日の巡回調査では、発病葉率7.1%（平成6.3%）であり、発生量は平成並みである。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

①6月26日の巡回調査では、発病葉率0.5%（平成1.1%）であり、発生量は平成並みである。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平成並

発生量 平成並

予報の根拠

①フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平成並みである。

②向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

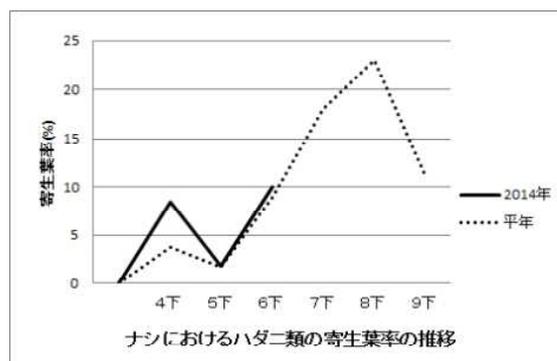
発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の発生量は寄生葉率10.0% (平年8.9%)、寄生虫数28.8頭 (平年21.1頭) と平年並みである (グラフ参照)。

② 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



(5) アブラムシ類

予報内容

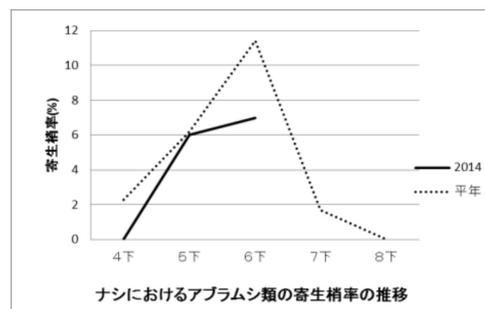
発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では寄生新梢率7.0% (平年11.4%) で平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月27日の巡回調査では、発生量は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。

② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内果樹栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察灯 (出雲市) での7月4半旬までの誘殺数は1240頭 (平年840頭) で平年よりやや多い

② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。

③ ヒノキ花粉飛散量は平年に比べ少なく繭果も少ないと予想され、圃場への飛来は早くなると予想される。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>